

# 平成23年度 八洲学園大学国際高等学校事業計画書

## 1. 施設の概要

### (1) 所在地

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学国際高等学校	法人所有	905-0207	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	0980-51-7711	0980-48-4115

## 2. 学生(生徒)の概要

### (1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(平成23年3月1日現在)

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) $(②+③) \div ① \times 100$
通信制課程 (広域)	普通科	※※※※※※	5000	796	0	4	15.92

### (2) 平成23年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧

	入学者数 (途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	286	203	14	5	44	20
聴講生	4					

### 3. 教職員関係

#### (1) 平成23年度管理職の概要

職名	氏名	備考
校長	岩井 貴生	留任
教頭	中村 成希	留任

#### (2) 平成23年度教職員の概要（平成23年3月1日現在）

		合計（人）	沖縄	横浜
教員	本務	男性（5） 女性（5）	9	1
	非常勤	男性（2） 女性（4）	6	0
職員	本務	男性（2） 女性（0）	2	0
	兼務	男性 女性	0 0	0 0

平均年齢は教員38.3才、職員37.5才である（平成23年3月1日現在）

### 4. 事業の概要

#### (1) 事業の概要

本学の平成22年度入学者数は横ばいであったが、在校生数が減少した。20・21年度の入学者数減と卒業に向けた学習指導の効果が浸透し3年の在籍期間で卒業してゆく生徒が多かったことによる。就学支援金制度により、今後も生徒の卒業までの在籍期間が短縮する傾向は続くことが見込まれる。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

平成23年度は、平成24年度からの「ゆとり教育からの転換」となる新指導要領移行により、科目数と学習内容が大幅増となり学習内容も高度化される。そこで、学生管理料収入等による単価増、生徒の学習支援ならびに教員の業務負担増軽減のために、eラーニングコンテンツの全面見直し、レポートの全面改訂、補助教材の開発、携帯電話やPCを使用した学習システムの開発、高大連携の具体化、進路指導の強化、高認試験希望者への対応強化、学則変更（新学習指導要領対応）などといった教育改革に着手する。

また、組織図も含めた校務分掌の見直しといった組織改善も並行して実施する。生徒募集に関しては、主力のWEBプロモーションだけでなく、10代から20代の潜在志願者層に急拡大しているソーシャル系メディアでのプロモーションを開拓するとともに、22年度から強化している沖縄地区での地域メディア露出展開をいっそう強化する。また、技能連携校・サポート校の開拓も今まで以上に積極的に行いながら生徒確保に繋げていきたい。上記以外の計画としては、22年度に実施し好評であった地域貢献や地域交流も更に強化し、学校の知名度と良い印象の拡大を生徒募集増に結びつける。

① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
23～	eラーニングコンテンツの見直し	新学習指導要領との照合、映像と音質の改善を行い、eラーニングの利用者を増やす。	
23～	レポート内容の改善	新学習指導要領との照合、難易度の再考と問題の改訂を実施する。	
22～	携帯電話を活用したレポート補助教材の開発	レポート提出率、合格率の向上、FAQ問合わせ対応の効率化を目的とし、すべてのレポート教材にQRコードを掲示し、携帯電話からアクセスできるWEB上の補助教材を整備する。	QRコード作成作業は完了。
23～	デジタルパンフレットの整備	ソーシャル系メディア/タッチスクリーン機器などへの広報展開のため、デジタルパンフレットを作成する。	

22～	学校要覧の作成・配布	学校要覧を作成・配布することによって本学への信頼度を上げる。	文章化は完了、4月末の入学実績を集計し、発行、配布する予定。
22～	自己点検評価の作成	22年度の業務全般を自己点検し、外部へ公表する。	自己点検資料の評価は終え、23年度に公表するための文章化を前期中に実施する。
22～	高大連携の具体化	「ホームルーム活動」などでの大学教育の応用	八洲学園大学の就転職用講座が利用可能となった。
23～	進路指導の強化	「ホームルーム」での進路指導の導入	
22～	高認試験希望者への対応強化	聴講生（高認試験希望者）向けのパンフレット作成 学校 WEB サイトでの高認試験情報ページの追加、高認向け資料請求フォームの追加	
23～	学則変更	24年度から導入の始まる新学習指導要領に対応	
22～	組織図と校務分掌の見直し	組織編成と主任制度の強化による仕事の効率化	組織編成は整い、部内の統制もとれは始めている。更に強化してボトムアップの組織にしてい
22～	地域貢献・地域交流	昨年度に引き続き、FC 琉球・本部町の後援を得て第1回本部町×八洲学園少年サッカー大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。 また、定期的な学校近隣の清掃、地域行事などにも、昨年度同様可能なかぎり参加する。	月2回の学校近隣の清掃や地域行事への参加、そして本学主催の地元チームのサッカー大会は地元から高い評価を頂いた。
22～	WEB プロモーションの展開	ソーシャル系メディア（ツイッターと現行メディアの連携を含む）への広報展開	WEB 導線の再構築は完了した。

22～	技能連携校・サポート校の開拓	技能連携校・小規模塾や高等専修学校などのサポート校募集活動	沖縄の離島の私塾がサポート校に加盟した。また、技能連携校からの打診もあり、今後技能連携校との提携を実施する。
-----	----------------	-------------------------------	--

② 施設・設備の整備計画

年 度	事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期	備 考
22～	校舎宿舎の修繕 (宿舎壁、各棟エアコン修理、セキュリティシステムの改修、ゴミ捨場・宿舎手摺のサビ止め、宿舎ベッドの修繕、シャワー部品改修など)	小規模	300000	管理修繕費	未定	
23～	バス修繕・点検費用	中規模	500000	管理修繕費	未定	
22～	PC、PC 周辺機、印刷機などの設置	中規模	100000	管理修繕費	未定	
23～	TRESS 改修	中規模	1500000	管理修繕費	未定	

③ 授業料変更等

年 度	事 項	概 要
	計画なし	

④ 卒業者数、就業者数の見込みについて

平成23年度は、22年度ベースで見積もった結果、約203名の卒業者数を見込んでいる。

進路アンケートによると今年度の就業者数は、10名程度だったため(新規就職者)、来年度はハローワーク経由の就職を含め20名に達するよう進路指導を実施する。

⑤ 生徒の就職、進学について

平成22年度はスクーリングで進路アンケートを実施し、進路調査を行うよう努めたが、在学生・卒業生の正確な進路状況把握が厳しい状況であった。今後も正確な状況を把握するのは厳しいが、平成23年度の取り組みとして、進路未決定者を減少させるために進学に関しては指定校推薦の学校数を増やし、就職に関しては職業体験講座を実施して進路の選択肢を増やすよう努めたい。

⑥ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
22	退職者（教職員1名、非常勤講師2名、パート1名）	
23	教職員採用（常勤講師1名・非常勤講師1名）	任期制教員（有期8名）・、常勤講師（有期2名）、非常勤講師（有期6名） 常勤職員（有期2名）、パート（有期4名）

⑦今後の課題について

最重要課題は継続的な生徒募集増である。そのためにも、前例や成功体験にとらわれずに潜在志願者のメディア視聴動向に応じた広報展開を進め、最大手ライバル校に対抗してゆく。新学習指導要領が25年度に完全適用となるので費用を抑えつつ現行課程からのスムーズな移行を進めなければならない。施設安全性の改善と確保を最優先とすることも言うまでもなく、今後3年程度でPC端末の更新を図るのにあわせて校務のIT化・省力化を進め、その余力を学級経営と広報活動に注力し、上記に挙げた事業計画を確実に着手・進捗させ、生徒募集の増加に繋がる学校経営をする必要がある。

5. 財務の概要

23年度は、昨年度・一昨年度の入学者減少による在校生減少を考慮して支出を抑えることを念頭に置き、入学予定者数に大幅な伸びが見られなくても黒字経営になるような財務編成を試みている。23年度の財務計画では、24年度からの新学習指導要領への移行に伴う、科目増・TRES改修に当てるため、教材費、研究費を確保した。教育内容と施設・設備の改善に投資し、「教育の質」を向上させることによって徴収した授業料を生徒に還元していきたい。